

雲南市立鍋山小学校だより

2月号

な かよく へんきょう
やるき まっしぐら



平成31年2月20日発行
校長 別所 久美子

ゴール間近！

3月19日(火)卒業式

3月22日(金)修了式まで



これからも「育てる」「育つ」教育をめざします。

熱心に教えてくれる教師（親・指導者）が必ずしもよい教師（親・指導者）とは限りません。教育を「育てる」「育つ」という面から考えることが大切です。



研修会「子どもの自己肯定感を高めるコーチング」に参加して、私が感じたことをお話しします。

※**コーチングとは…コミュニケーションを通して、相手のやる気、自発的な行動、能力を引き出すプロセス。**

その研修会での紹介事案ですが、これまでにスポーツ指導者が選手を強くしようとして、選手に多くを教えこみ、「育てること」をおろそかにし、選手の能力や才能、身体を壊してしまうということがありました。

逆に、選手の能力を引き出すかわりを通して、練習方法やメンタル指導を積み重ね、勝利に導き、選手の持ち味を开花させたということもありました。

私は、「学校」「家庭」「社会」教育でも同じことが言えると思っています。

「育てる」「育つ」教育をしていくためには、「子どもは計り知れない可能性をもっている」という子ども観が必要です。

目の前の子どもを「この子は、こんな子」と見限らないこと。子どもは、大人が思っている以上にはるかに自分で考え、自分でやってみようとする力をもっています。しかし、身近にいる教師（親・指導者等）が、子どもの発語を待たず（実は、子ども自身が言葉を発するまでに結構時間がかかるので大人が待ちきれない場合があります。）「…したら？」「…でしょう。」と言ってしまう、教える、与えるとしましょう。

そうした場合に、子どもが教師（親・指導者等）の言うことを聞いて、その通りにやってくれたら、大人にとってはとてもスムーズですし、大人にとっての「都合のよい子」となると考えています。

もちろん、いつもいつも「育てる」教育を！とはなりません。「教え」「諭す」場合も多々あります。

しかし、大人側が温かい目、長い目で子どもたちを見守り、子どもたちに関心を寄せながら近くにいること、そして子ども自身がどうしたいのか、どうすればよいのか、よかったのかを考えさせること、それに対してアドバイスを送り「最終決定は子ども自身で」となると子どもは自らの考えようとする力・伸びようとする力を積み重ねていくのではないのでしょうか。

毎日の授業も同じように考えています。子ども同士をかかわらせ、子どもの声（考え・思い）を引き出すことで「育つ」「育てる」授業づくりをめざしていきます。

**自分の力を積み重ねていこう。
ひとつひとつ 1時間1時間 1日1日・・・①**

**1月18日(金) 授業公開日
全学年 性に関する授業公開**



おうちの人と一緒に自分の成長について確かめたよ。



今の自分の体には、「おうちの人にもらった力」と「自分でつくった力」があるね。



自分の体には、ちゃんと名前があるよ。



入学してからこれまでにずいぶん大きくなってきたね。



毎日の生活に笑いを取り入れて、健康な心と体をつくっていこう。



「性に関する指導」では、自分の体を知り、自分を大事にする子ども、お互いに相手を思いやる子ども、社会の様々な問題を正しく判断し、解決していこうとする子どもを育てていくために行っています。体のつくりや働き、発育には個人差があること、心の発達と体はつながっていること、性情報の正しい受け止め、望ましい行動に結びつけること等、家庭との連携・協力が必要です。



**1月23日(水) 朗読会
1年生、5・6年生発表会**



表現力の向上をめざし、取り組んでいる朗読発表会。回を重ねる毎に、声の大きさだけでなく、声の調子、身ぶり、表情など表現上の工夫が見られるようになりました。また、聞き手である他学年の子どもの感想交流・発表にも積極性が見られるようになりました。

業間縄跳び



「今だよ。」と言って、低学年の子どもの背中を押す高学年。「できた。」「惜しい。」と言いながら長縄跳びをしています。また、3分間持久跳びや個人技にも励んでいます。縄跳び運動をとおして、心を鍛え、心を豊かにしていきます。

地域とともに歩む・創る

1月24日(木)

読み語りボランティア 板垣由紀様による
1冊の本「番ねずみのヤカちゃん」の読み聞かせ



1月25日(金)

1・2年生

木次図書館見学



低学年の子どもたちの集中力が増してきたことを感じています。子どもたちは、本の細部に渡ってよく見てお話を楽しんでいます。語り手の温かい声や気持ちを体全体で受け止めている子どもたち。こうした経験の積み重ねで豊かな気持ちを育てていくのだと実感します。

木次図書館見学にも行きました。たくさんの本を見て、「読みたい。」という気持ちをいっしょに高めました。そして、子どもと本の間に「ひと」がいることで、本の楽しさを伝えることができます。



三刀屋町に3名の留学生
さんがホームスティ中。

2月7日(木)

早稲田大学留学生との交流会



5・6年教室では、日本の伝統文化である毛筆学習を子どもたちと一緒に体験してもらいました。留学生さんのチャレンジ精神は、子どもたちにも伝わりました。低学年の子どもたちも遊びを通してお互いの文化に触れる貴重な時間となりました。ひまわり教室でもかるた取りを楽しみました。



2月8日(金) 15日(金) 1年生 昔の遊び

里坊 石飛 啓 様

殿垣内 富田 充徳 様



石飛様、富田様にご来校いただき「昔の遊び」を伝承してもらいました。竹でっぼう、こままわし、めんこ、お手玉。懐かしい遊びの数々。身近にある材料を遊び道具に変身。ああでもない、こうでもないという頭を使って遊びました。あの頃は時間の流れもゆっくりだったなと思ひ出しました。

2月12日(火) 卒業制作

6年 木彫り体験

乙加宮にお住まいの景山孝三様、裕美子様、今年度もお世話になります。

ふるさと鍋山でご活躍される景山様のご指導で、6年生が卒業制作に挑戦中です。

自分の力を積み重ねていこう。
ひとつひとつ 1時間1時間 1日1日・・・②

1月29日(火) 1日入学

31年度新入生は、10人です。

10人をお迎えしようと、1年生は張り切って準備をし、当日を迎えました。



新しい1年生さん、
待ってたよー!



小学校では、勉強するんだよ。



一緒に遊ぼう。
「はないちもんめ」



これからも
よろしくね。



進行は、三刀屋中学校教育支援コーディネーターの梶浦桃子様です。



保護者さん方は、別室で「親学プログラム」に取り組みました。

親学プログラムとは、子どもを育てるうえで生じてくる悩みや親としてのふるまい方について、どのように子どもとコミュニケーションをとったらいいのか、一人一人が考え、お互い出し合って、参加者全員で分かち合い、自分のこれからの生活・考え方につなげていくためのプログラムです。

今回のテーマは、入学に当たって心がけたい「早寝・早起き・朝ごはん」でした。

全ての人に与えられている24時間。生活スタイルは一人一人違います。だけれども、お互いのやり方、考え方を話し合うことで、自分だったら我が家だったら・・・という視点で、テーマについて考えることができたのではないのでしょうか。物事の優先順位や軽重をつけながらも入学される子どもさんの生活習慣が身につきますようお願いします。

10名の新入生の皆様・保護者様

ご入学をお待ちしています。

